

自閉症・情緒障害特別支援学級 第1・2・3学年 自立活動指導案

日 時 令和7年11月27日(木)

第5校時 13:30～14:15

対 象 第1・2・3学年B1組

12名

授業者 T1 中村 英実子

T2 長岐 周子

会 場 1階 みどり B1組教室

1 題材名 「こんなときどうする？」(7/12時間)

2 題材の目標

自分の行動を客観的に捉えて振り返り、正しい言動を考えることができる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、特別支援学校指導要領 小学部・中学部学習指導要領(平成30年3月告示)

第7章 自立活動 第2 内容に基づく。

区分	項目
2 心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関すること
3 人間関係の形成	(2)他者の意図や感情の理解に関すること
6 コミュニケーション	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

自立活動の目標は、学校の教育活動全体を通して、児童が障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要とされる知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことによって、自立を目指すことを示したものである。ここでいう「自立」とは、児童がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味している。その上で、自立活動において児童の個々の指導目標(ねらい)を達成するためには、6区分に示されている項目の中から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定する。本題材では、児童に特に必要な項目を3つ選定した。

①初めてのことや急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりする児童に対し、上記2(2)の指導内容として、予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定するなどして、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けさせたりしていく。また行動の仕方を短い文章にしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けさせることが必要と考える。

②特性上、相手の思いや感情の読み取りや、それに応じた行動が困難な場合や、言葉を字義通りに受け止め、相手の真意の読み取りを間違えてしまう児童が多い。上記3(2)の指導内容として、相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けさせていく。

③会話の内容や周囲の状況を難しく、状況にそぐわない受け答えをすることがある児童に対して、上記6(5)の指導内容として、相手の立場や気持ち、状況などに応じて、適切な言葉遣いや場に応じた声の大きさなど場面に合った表現方法を身に付けさせたい。

(2) 教材観

ソーシャルスキルトレーニングは、日常生活で必要とされるルールを理解し、場面に応じた適切な行動ができるようになることをねらいとしている。ソーシャルスキルトレーニングは、日常生活に近い場面を設定することで、場面や相手に応じた行動や話し方・伝え方を身に付けられるようにしていく。日常生活に近い場面とは、学校（クラス）における、児童同士の関わりの中で実際に困っていた場面であり、それをもとに教員が児童の立場で演じる「モデリング」で場面を示し、児童に正しい行いについて考えさせる。登場人物（児童①・児童②）は、どう思ったか、どうしたらよかったかをワークシートに書き、自分の立場に置き換えた時に、正しい行動ができるように指導している。

ソーシャルスキルトレーニングは、日常生活や学校生活で般化することを目指し、毎時間学んだことを学校生活の中で定着させるよう指導していく。教室に、毎時間学んだことを紙に書いたものを掲示し、児童が日常的に振り返ることができるようにする。教員も、掲示内容を活用して、「こんな時はこうする」と正しい行いが迷わずできるように支援していく。

4 児童について

目指す児童像（みどり学級）

目標の達成に向けて意欲的に取り組み、集団活動ができる児童

(1) 児童観

みどりB学級1組は、1年生3名（男子2名、女子1名）、2年生6名（男子5名、女子1名）、3年生3名（男子3名）、計12名のクラスである。自閉・情緒学級では、相手の気持ちを想像することが難しく、自分の思いだけで行動してしまう児童が多い。そのため、普段の生活の中で相手の気持ちを考えない言動が原因でトラブルになることが多い。その際に自分が相手を不快にさせる言動に気が付いていなかったり、何で相手が不快に思っているのか分からなかったりする児童がいる。その都度、何がいけなかったか、相手はどんな気持ちになるか、どうすればよかったか振り返りをしている。

しかし、繰り返し指導をしても身に付いていなかったり、客観的に自分の行動を見ることが難しかったりする児童も多にいる。

(2) 目指す児童の姿

(1)の実態により、の実態により、自分の行動を客観的に捉えて振り返り、正しい言動を考えることができる児童を目指す。自立活動の指導すべき課題は、児童一人一人違うため、課題となるものが似ている児童を以下の通りグルーピングした。※「児童の実態」（別紙）を参照。

グループ	個別のめあて	対象児童
①	場面にふさわしい正しい言動を知る。	B児 C児 E児 I児
②	場面にふさわしい正しい言動を知り、実践することができる。	A児 D児 G児
③	場面にふさわしい正しい言動を知り、実践方法を身に付けることができる。	F児 H児 J児 K児 L児

5 研究主題に迫るための手だて ※個別の課題と手立てについては「児童の実態」(別紙)を参照。

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
到達度の違い	自分の考えを相手に伝えることが苦手である。	・自分の意見を伝えることができるように、考えを書く時間を設ける。 ・ペアを組むことで、友達に意見を伝えやすくする。 ・教員と話をしながら考えを整理したり、自分の考えに自信をもたせたりする。
感じ取り方の違い	相手の気持ちを考えたり理解したりすることが難しい。	・個に応じた課題が違うため、同じ場面でも2つのパターンのロールプレイを行い、相手の気持ちを考えることができるようにする。

6 題材の指導計画と評価計画 (1学期4時間、2学期4時間、3学期4時間 計12時間扱い)

[ : 個別最適な学び  : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	◆指導上の留意点	・評価規準 (評価方法)
1 ～ 4 	◇自分の行動を客観的に捉えて振り返り、正しい言動を考えることができる。 【ロールプレイの題材】 1時：課題ができずに怒ってしまう。 (A児、D児、F児、K児) 2時：話を聞いておらず、やることが分からなくなる。 (B児、C児、E児、G児) 3時：手を挙げずに発言をしてしまう。 (F児、K児) 4時：割り込みをしてしまう。 (F児、G児) ○ロールプレイを見ていけなかった言動を考え、見ていた人の気持ちや、正しい行動について考える。 ○正しい言動についてロールプレイを行う。 ○自分の行動を振り返る。	◆第1時～第4時は、児童の普段の生活で身近に起きた事例からロールプレイを行うようにする。 ◆学習の流れが分かるよう一斉指導で行う。 ◆登場人物の気持ちを考えることで、周りの人の気持ちを考えやすくする。 ◆気持ちを表す言葉を示した「ことばのたからばこ」を手元に用意をする。	第1時～第4時の題材に関して以下の観点で評価する。 ・不適切な行動に気づき、正しい行動について考えることができる。 〈発言・ワークシート〉 ・友達と相談して学習に取り組むことができる。 〈観察・発言〉
	◇自分の行動を客観的に捉えて振り返り、正しい言動を考えることができる。 【ロールプレイの題材】		

5 ～ 8 (7時本時)  	5時：質問をするとき。 学びの個別化・個性化 自分から質問することができる。 タイミング良く質問することができる。 6時：友達に話しかけられたとき。 学びの個別化・個性化 話しかけられたら返事をするすることができる。 友達の話聞いて返事をするすることができる。 7時：会話をするとき。 学びの個別化・個性化 相手と順番に話をするすることができる。 自分から会話を始めることができる。 8時：整理整頓をするとき。 学びの個別化・個性化 身の回りの整理整頓の仕方を知り、実践することができる。 面倒くさがらずに整理整頓をすることができる。 ○ロールプレイを見ていけなかった言動を考え、見ていた人の気持ちや、正しい行動について考える。 ○正しい言動についてロールプレイを行う。 ○自分の行動を振り返る。	◆5～8時は自分が損をしてしまう行動についてロールプレイを行う。 ◆個の課題に応じてグループ分けを行い、正しい行動について考える。	第5時～第8時の題材に関して以下の観点で評価する。 ・不適切な行動に気づき、正しい行動について考えることができる。 〈発言・ワークシート〉 ・友達と相談して学習に取り組むことができる。 〈観察・発言〉

9 ↓ 1 2  	◇自分の行動を客観的に捉えて振り返り、正しい言動を考えることができる。 【ロールプレイの題材】 9時：勝敗のある活動のとき。 学びの個別化・個性化 勝つことにこだわらずに活動できる。 途中であきらめずに最後まで活動できる。 10時：順番を決めるとき。 学びの個別化・個性化 1番にこだわらずに順番を決めることができる。 自分のやりたい順番を伝えながら決めることができる。 11時：挨拶をするとき。 学びの個別化・個性化 自分から挨拶することができる。 挨拶を返すことができる。 12時：不適切発言をしてしまうとき。 学びの個別化・個性化 人が不快に思う発言内容を知ることができる。 適切な発言かどうか考えてから発言をすることができる。 ○ロールプレイを見ていけなかった言動を考え、見ていた人の気持ちや、正しい行動について考える。 ○正しい言動についてロールプレイを行う。 ○自分の行動を振り返る。	◆9～12時は相手意識をもつことを中心にロールプレイを行う。 ◆個の課題に応じてグループ分けを行い、正しい行動について考える。	第9時～第12時の題材に関して以下の観点で評価する。 ・不適切な行動に気づき、正しい行動について考えることができる。 〈発言・ワークシート〉 ・友達と相談して学習に取り組むことができる。 〈観察・発言〉
---	---	---	--

(2) 本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

78

	○どうすればよかったか考える。 ・ワークシートに記入し、全体で共有する。 ロールプレイ① C:一方的に話さなければよかった。 C:「話をさせて」と言えばよかった。 ロールプレイ② C:相手の名前を呼んで話す。 C:話したいときは声をかける。 ○どうすればよかったかの意見からふさわしい行動について考え、共有する。 ロールプレイ① C:順番に話をする。 C:話を最後まで聞く。 ロールプレイ② C:話す前に名前を呼ぶ。 C:相手を見ながら話す。 ○どうすればよかったかを踏まえて、ペアでロールプレイをする。 ・ロールプレイを見たら、よかったところをペアで伝え合う。 ロールプレイ① C:話し終わるまで待っていてくれた。 C:こちらを見て話を聞いてくれた。 ロールプレイ② C:名前を呼んだから相手が気が付いた。 C:話したいことが伝わった。  ○全体の前で発表し、良いところを見つける。 C:二人が順番に話せていた。 C:話し終わるまで待つことができていた。 C:相槌が上手だった。	◆出た意見からどう行動すればよいかを考えるようにする。 ◆3年生や昨年度からB学級に通っている2年生を中心に、正しい行動について話し合いを進めることができるようにする。 ◆ロールプレイに活かせるよう、記録し、黒板に提示する。 ◆ペアでロールプレイを行い、全員がロールプレイをすることができるようにする。 ◆良い気持ちでするためにどうすればよかったかポイントを確認しながら進めることで、相互評価をしやすいとする。 ・場面にふさわしい表現方法を知り、実践することができる。〈ワークシート、観察〉 ◆ワークシートにふさわしい表現が書けているか、ロールプレイが出来ているか確認する。 ◆上手にロールプレイをすることができていたペアを各グループ2組程意図的に指名する。 ◆良かったところを発表させて相互評価を行う。
終末 5分	○本時の目標に対する振り返り、「こべつ のやくそく」の振り返りをする。 ○次時の学習について見通しをもつ。	◆本時で学んだことを振り返り、掲示を作る。 ◆毎回同じ観点にすることで、振り返りをしやすくする。 ◆振り返りを書いている時に教員が児童に声掛けをし、評価をする。(T1,T2) ◆次時について話をする。

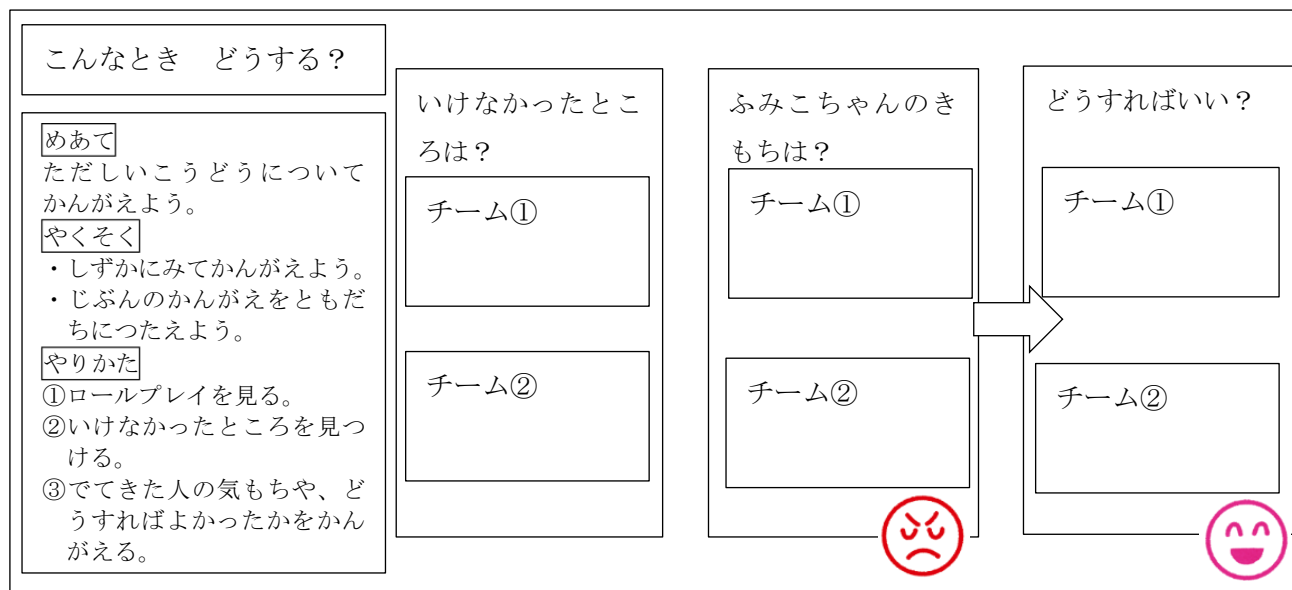
(3) 本時の評価

- ・人の話を最後まで聞いてから自分の話をするができる。(3 人間関係の育成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること)
- ・場面にふさわしい表現方法を知り、実践することができる。(6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること)

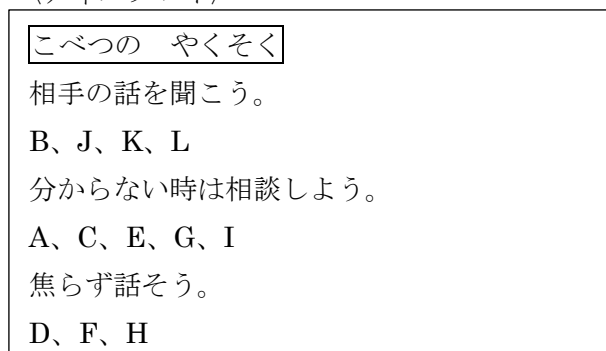
※本時の児童の評価は個別の評価とするため、児童の実態と本時の個別の評価は別紙にて参照

(4) 板書計画

〈黒板〉

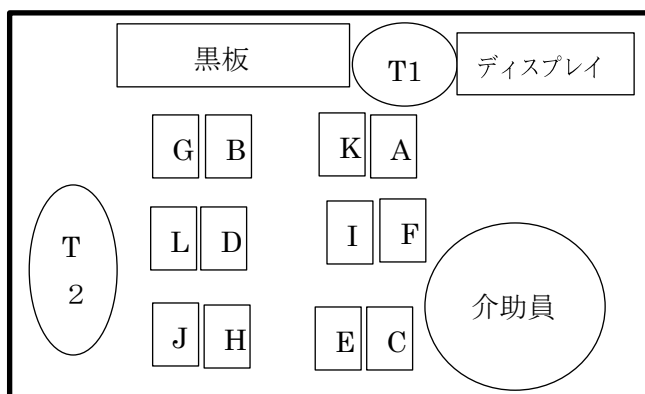


〈ディスプレイ〉



8 教室配置

授業開始・まとめ時



課題別時

